

# スコラ



定価 390円



ドキドキFLASHスペシャル

**佐藤恵美** テレビ番組で追ってついに発見したぞ。スコラが誇るICBMアイドルだ。

**これが世界ラリー選手権・WRCの怪物たちだ!!**

アジュー205TURBO・ランチャデルタS4・シトロエンBX4WD・フォードRS200・アウディスポーツ クアトロ

特別ルポルタージュ レーシングチーム・カタヤマ合宿体験10日間

**俺が片山敬済だ**

俺たちクルマ遊学人6  
北方謙三+徳大寺有  
自分だけの価値観があるから白いBMWには乗らないんだ。

PLAY HOTEL GUIDE IN TOKYO

**プレイホテル 僕らのワンダーランドです。**

25ページにお届け、ますます快調なエンジンのシンジケートは日本どこへも倶楽部5ccに輝ける青春の栄光と希望

NEW BIKE 速報一番乗り!!

**ホンダFTR250**  
初のダートトラック登場!!

こんなに迫力のあるフォトは、これで最後だ。

## 堀江しのぶ

おニャン子クラブ聖アイドル列伝④

## 吉沢秋絵

ホンモノのちえみにトーク・タッチ

## 堀ちえみ

お役に立ちたい一心の実用セクシー・フォト!!

## 花村紅子

## 黒木玲奈・早見瞳

本誌独占インタビュー 120分1本勝負!!

# スティービー・ワンダー

まっすぐ立って、まっすぐ世の中を見るんだ。そうすればすべてが愛だっということがわかるよ。

スペシャル・アサイメント '86年春、弱肉強食の世紀がやってくる!!

# 危ないぞプロレス

春風のように悩ましく、じらして満開。

# 悪魔のタッチSEXテクだ!!

Illustrated Fashion Book いまの流行がひと目でわかる

# よくわかる着ブランド教本

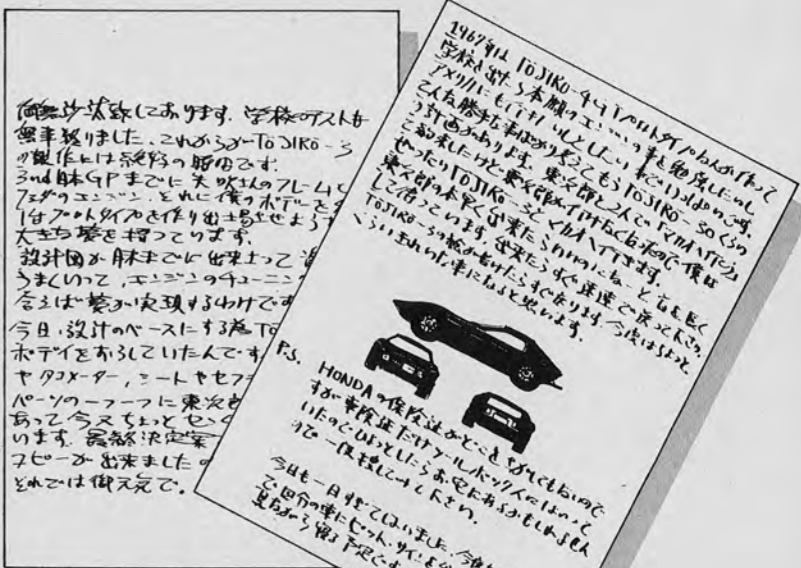


# 俺の新たな夢、それはF1!!



# 林ミナル 童の夢を見続ける男

## チーム童夢DOME86Cル・マン24時間レース8年連続挑戦!!



今から20年前、夢多き青年が浮谷東次郎の母親にあてた手紙がここにある。そこには彼の夢、自分で造りあげたマシンでル・マンを走る……そんなたわいのないことが書きしるしてあった。しかし、そのたわいのない夢は今では現実のものとなっている。そして、彼は再び夢を見始めた。童のように……

企画構成=岡崎博之 文=冬沢竜彦 挿=太田潤、衛藤達也

### 今年、ル・マン8年連続出場を達成するチーム童夢

林ミナル。プライベート・レーシングチームの雄「童夢」のリーダーであり、わが国のレーシングカーデザイナーの重鎮的存在。79ル・マン初挑戦以来、このワールドイベントに7年連続出場の偉業を達成。モーターフリークスの心を熱くしてくれた彼が、'86ル・マンにもニューカーで殴り込みをかける。

期待の新車「童夢-86C」は昨年に引き続きトヨタのエンジンを搭載するが、関心を呼ぶのはボディデザイン、そしてチームのパワーアップだ。どんな秘策が練られているのだろうか。全容を明らかにすべく、林ミナルに直撃取材を試みた。



彼の考えはこうして製図版の上で図画され、実物のものへとなっていく

「ボディはもう、全面的に変えましたよ。これまでのレース経験で出てきた疑問、問題を煮つめて、ボディのフルチューンとなった。レースで

「ボディはもう、全面的に変えましたよ。これまでのレース経験で出てきた疑問、問題を煮つめて、ボディのフルチューンとなった。レースで

「どうしてもボディを変えなければならなかったのです」

彼はF2、F3000をステップにし、F1を目指す

「童夢-86C」のボディの斬新さにはかなり野心的な試みがあるのがわかった。では、そのレースを支えるチームの陣容はどうなのだろうか。これにもたのしい答えが返ってきた。「チーム体制から見れば、ウチとしては大きな変化の年をむかえたとい

はかなりよい成果が得られると期待する半面、ちよつと危い橋を渡っているという実感もある。これまで安定性とか耐久性を増すというところで、とにかくこれないようには作ってきたんですよ。ところが、昨年と同じエンジンを使いますから、パワーアップを図るためには、

85年ル・マンのワンシーン。クラッチトラブルによってリタイヤしたものの、なみなみならない実力を見せた



写真提供/滝口能成

えます。これまでにメインテナンスチームは寄せ集めてやっていたのが、今年はすべて自前で体制を組んでいる。実はここが一番、期待しているところなんだが、有能なスタッフを統括、コントロールするには最高の条件が得られませんでしたね。今までウチの最も弱点だったメインテナンスを、これでかなりカバーできると思っています」

ところで、林ミナルの「童夢」チーム。ル・マンでの実績をベースに、いよいよF1グランプリへのステップを踏み出すという。モータースポーツ界に生きるものなら、誰もが夢を馳せるレースの頂点、「童夢」のF1への途、戦略は――。

「とりあえずF2のメインテナンスを請け負うことで、モノコック製作のベースを築きたいね。で、サスペンションを手がける。実績を重ねて、完全にオリジナルなレイアウトを持ったマシンを作るのは、F3000を射程に入れて考えている。このマシンはほとんどF1に近いからね」

林ミナルのF1への青写真は、F3000をクリアすることに当面の重点が置かれている。88年に日本の開催が予定されるF3000レース。「童夢」チームは、これをタイムスケジュールに入れ、足元を固めている、といっている。



新しい「文具」  
パーソナルワープロは、  
ボクらの新しい知的  
カ・ノ・カン・グッズだ!!

# '86 スコアワープロ 完璧活用ブック

パーソナルワープロの選び方「新発想」のための知的活用術パーフェクト速習マニュアル



定価1,300円  
B5判・124ページ 講談社/スコラ



'86年、ル・マンを頂点とするレース  
シーンを戦い抜くマシンはコレだ



童夢84C、そして85Cというトヨタ4TG-T改エンジン用に造られたマシンを、もう一步空力的に進めたのが今年の耐久レースを戦う童夢86Cだ。  
昨年の11月ごろから風洞実験が開始され、まずは、予定どおりの仕上がりを見せている。これまでにない精密な5分の1モデルを製作、あらゆるアタッチメントを装着したり、また、外したりし、風洞実験のパターンは、200パターン/にもおよんだ。風洞実験に投入したお金も、約1000万円というからすごい。  
空気の流れによりマシンを路面に

しっかりとグリップさせるダウンフォースも、85Cに比べて格段に向上。よりコーナーでのグリップ力が増し、これにより、コーナリングスピードも増したというわけだ。なおかつ、空気の抵抗は、少なくおさえられている。  
外観的には、フロントのライト位置が85Cより高い位置にセットされ、サイドのエアーインテークは2分割の大きな



この2人がスコラチャレンジャーを操るE・エルグと岡本佳織



ものに、そしてウィングは、少ない抵抗で効果のあるローウィングとなった。ドライバーはエイエ・エルグとヨーロッパF2で大活躍をしていたベッペ・キャビアーニの2人だ。  
ワコールと童夢のジョイントプロジェクトにはもうひとつある。トヨタカローラFXによって国内ツーリング選手権(グループA)を戦うのだ。ドライバーは、耐久レースのエースドライバーであるエイエ・エルグと今、めきめきと腕を上げてきたタレントの岡本佳織だ。スコラは、この耐久レースとグループAレースの両方を強力にバックアップしていく。

ビジネスというよりも、どこかレースを楽しむ心があるからこそ、いい切っけしてしまえる言葉だ。そう、レースへのロマンはお金だけではけっして計ることができないと同様に、勝負の行方も計算し切れるものではない。

くだりレースをやっていると、いつか必ず幸福が手に入る、といういい見本じゃないかな。ポルシェやルノーのように必勝体制というか、天文学的数字の金を注ぎこんでなんとかなると勝とうというのとはちよつとちがうんだよ

ビジネスというよりも、どこかレースを楽しむ心があるからこそ、いい切っけしてしまえる言葉だ。そう、レースへのロマンはお金だけではけっして計ることができないと同様に、勝負の行方も計算し切れるものではない。

20年前、彼が出した一通の手紙、それが闘志を生んだ  
ル・マン、そしてF1へとつながる林ミノルのレーシングスピリットは、どこからわいてくるものなのか。その描き出す華麗なカーデザインの影にひそむ、不屈の闘志には驚かされる。  
その闘志はどこから生まれてくるのだろうか……。それは



空力的に煮詰められる「童夢-86C」のモックアップモデル



空力的に煮詰められる「童夢-86C」のモックアップモデル

20年前に彼が出した一通の手紙に端を発している。「昭和40年に亡くなってしまったレーサー、浮谷東次郎とは大の親友で、ステイタスを上上げるワークス。それに互して、プライベートチームがレースを戦うのは並大抵の努力ではない。だからこそ、林ミノルは10年、ロンドン(フラン

## 閃光のごときレーサー 浮谷東次郎

読者諸君は、浮谷東次郎というレーサーの名前を知っているだろうか。今では、彼の名前は小説や雑誌でしか見ることはできないのだから……。

まだ、日本のレース界が草創期のころ、東次郎は、真に慧星のごとく現れて、そして、23歳という若さで逝ってしまった。

10歳にして早くも自動車のハンドルを握り、15歳にして、一人、東京-大阪間、往復1500kmのバイクツーリングに成功。その模様は、自らの著者、「がむしゃら1500キロ」の中におさめられている。この本のタイトルのように、東次郎という人間は、すべてのことに対して情熱的で、「がむしゃら」であった。1960年には、高校を3年で中退、渡米。



慧星の機にあらわれそして消えた浮谷東次郎

3年間の米国留学中、バイクで北米大陸横断を果たしている。

やがて、東次郎の興味は、レースへと向けられ、帰国してからレーサー浮谷東次郎の活躍が始まる。後援社長の本田博俊、チームイクザオーナーの生沢徹とは、このころからの親友である。特に生沢徹とは、友だけでなく、強烈なライバルとして常にトップ争いを演じていた。1965年7月の第1回全日本自動車クラブ選手権(船橋サーキット)における東次郎と生沢のデッドヒートは、20年以上経った今になってもレース界の語りごととなっている。

そして、その1ヶ月後、第2回関西スポーツカークラブ選手権(鈴鹿サーキット)にトヨタのワークスドライバーとして出場する予定であった東次郎は、8月20日の練習中、コース上に止まっているマシンからコースを横切る人影を見て急ハンドルを切り、水銀電柱に激突、23歳という若さでこの世を去ってしまった。



彼のお母さんへのなぐさめの手紙にボクはル・マンに行く夢をしたためたことがあった。そこにル・マンを走るボクのクルマの絵を添えてあった。その手紙が昨年、デパートで開かれた「浮谷東次郎展」に出展されているのを目にして、すっかり忘れていたル・マンへの挑戦を夢見た当時の情熱を思い出した。それが、いま、F1へと再燃したときッカケです。ル・マンを夢見た当時は借金をかさねてクルマを作っても、途中で資金が底をついて挫折するのが多かった時代。覚悟のうえでここまでやってきたんです。そして、いま、F1に燃えているんです。今は、ようやく、世間にも認められてプライベートでレースをやっている。でも飯が食える時代になったけれどね

## ル・マンの常連になったDOME(童夢)

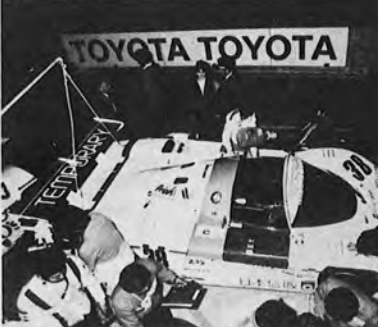
世界最大、そして歴史ある耐久レース、フランスのル・マン24時間レース。この耐久レースのビッグイベントに日本のコンストラクターとしては、最多出場記録更新中の童夢だ。

童夢のル・マンチャレンジは、1979年の第47回大会から始まった。もちろん今年の第54回大会にもエントリーするから8回連続出場となる。今や、ル・マンの常連として「DOME」の存在は、ポルシェ、ロンドン、フェラーリなどと同等にはならないものとなっている。

この童夢チームの走らせたマシンは、童夢-零RL-80、81、耐久選手権にグループCカー規定がしかれてから製作された童夢RC-82(このマシンは、日英のマーチエンジニアリングで製作された)RC-82の改良型、RC-82i、RC-83、そして、トヨタエンジン初のル・マンチャレンジのシャシーとして2台のエントリーを果たしたTOYOTA童夢85C-Lと続く。

昨年、この85C-Lの1台は、完走総合12位

という結果を残している  
常に先進のマシン作りで話題を呼ぶ童夢。毎年、ル・マン24時間レースの予選日前日に行なわれる市内ジャコバン広場の車検では、童夢のマシンのまわりには、関係者はもとより、モータースポーツファンが黒山の人だかりとなってしまう。マシンを前進させるのにも苦労するほどだ。  
林ミノルが20年前に見た夢、ル・マンのピットで自分の造ったクルマにピットサインを送る……それは、今年も現実のものとなる。今年の童夢のル・マンでの活躍の模様は、スコラ102号(6月26日発売)でレポートする。乞う御期待!!



写真提供/ 滝口能成



# 常に、青春の日々のハングリーな心を持っていたい

だが、その林ミノルでさえも、F1レースは、しばらく禁忌として心のうちに閉じこめていた。まるでサイレンの魔女の美しい歌声を聞くまじとするかのように。

「あまりF1に興味を持つと火がついて困ると、レースなども、自分の

心を押さえこんで見てきた。昔、レースカーを作ろうにも金がなくて、苦労ばかりしてた頃でもね、じややめとけつていわれてもやめられなかった。そんな自分を知っているから。でも、実は1回だけ、フォーミュラーカーを作った経験があるんですよ。『マクランサパニック』という名の。F1界にパニックを起こそうって意気込みをこめてね。ル・マンもF1も同じように思っていた時期も



## プレゼントだっ!!

今年も、昨年引き続き童夢はワコールとタイアップする。それを記念して、ワコールさんがまたもや「ワコールTOYOTA童夢86C・オリジナルウエア」を本誌読者のキミたちにプレゼントしてくれるのだ。応募先は、〒601 京都市南区吉祥院中島町29 (株)ワコール本社内「ワコール童夢・オリジナルウエア」プレゼント・スコラ見たゾ係まで。ただし、5名様だゾ!!どーしてもほしい人は1万6000円出して、☎03(201)3242にTELを

あるけれど、知るにつけふたつは全然違う。完全にプロフェッショナルな世界ともわかってきた。F1がシ

淡々とした語り口でいながら、レースに賭ける熱い心情を隠すことができない。

ビアで難しいものとは充分理解しているが、技術的な難しさっていうのはかえって楽しみに思えるんです。今みたいに恵まれた状況でレースができるって、そのままワークスチームの領域に入っているってしまえば、うん、ぬるま湯からね。ぬるま湯につかっているみたいに見えるんですよ」

ハングリーな心を取り戻したい。林ミノルのF1への挑戦は、ギリギリの状態でクルマ作りに打ち込んでいた青春の日々に、もう一度立ち帰ろうという決意なのだろう。言葉の端端から漂ってくるレースへのロマン。



マクランサパニック、林ミノルが造ったF1だ

「誰かのためにやっているものじゃない。ボクは自分の欲求を満たすために、モータースポーツをやっているんだ」

最後に語った林ミノルの言葉に、常に崖っぷちにおのれを立たせる孤高な魂を見た。'86ル・マンも、きつとボクらのハートを揺さぶってくれているに違いない。

今年も、林ミノルとワコールTOYOTA童夢86C・スコラチヤレンジャーに大声援を!!

